AMDA ジャーナル ー国際協力ー 2013年冬号 2013年1月25日発行 □発行定日 年4回（1・4・7・10月 各25日） □1995年11月27日 第三種郵便物認可

AMDA 多様性の共存 ジャーナル

2013年1月25日 VOL.36 第264号 定価550円
発行／AMDA 〒700-0013 岡山市北区伊福町3-31-1
TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717
E-mail:member@amda.or.jp
郵便振替：01250-2-40709 □座名：特定非営利活動法人アムダ

2013年 冬号

冬

救える命があればどこへでも

特定非営利活動法人アムダ（AMDA）
http://amda.or.jp/
特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
http://www.amda-minds.org/
特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター
http://amda-imic.com/

2013年を迎えて

AMDA グループ代表　菅波　茂

宗教対立で襲撃された村で緊急医療支援活動を行う AMDA バングラデシュ支部

新春のお慶びを申し上げます。

リーマンショックから始まった世界金融恐慌が欧米を中心として本格化しそうです。欧米各国はデフレ状態ですが、欧米諸国の増刷したマネーでアジア諸国は生活向上とインフレ状態。我が国もデフレ的思考からインフレ思考へとモード変換が必要になりそうです。

NGO 界も「命を守るに加えて生活の質を向上させる」方向性が大切になってきました。「NGO は命を守る普遍性。NPO は生活の公共性」が使命です。1998年の NPO 法の制定以来 NPO の数は約4万弱と増加。一方、NGO の数は1990年代から5百と変わりません。明らかに時代の変化を表しています。命から生活へと。

アジア諸国は生活の質の向上とともに専門性のある支援を必要としています。アジアにも高齢化社会到来です。日本の介護保険制度に代表される介護施設、介護技術、介護スタッフ能力が求められています。農業も命を守る有機農業が大量生産するために農薬を撒く農業より重要視されてきています。

国境を超える NPO（および自治体）と NGO の連携がアジアの時代にふさわしい象徴になると思います。一方、東日本大震災復興に尽力することは欧米発の金融大恐慌に対して私たちがいかに団結できるかという大きな敷石金だと思います。

2012年12月16日から22日にかけて、6年ぶりにバングラデシュを訪問してきました。

AMDA バングラデッシュ支部は日本バングラデシュ友好病院の設立をきっかけに、2003年に正式に発足。現在に至るまで AMDA スピリットで積極的な活動を行っている頼もしい支部の一つです。海外では難民や災害被災者救援の AMDA 多国籍医師団への参加に加えて、国内で巡回診療活動の実施、栄養プログラムそしてマイクロクレジットなどです。

バングラデシュの子どもたちと

支部のあるダッカからチッタゴンまで飛行機で約1時間。さらに車で走ること4時間。イスラム教徒が多数のバングラデシュにおいて、少数派となる仏教徒の民族が居住するチッタゴン向陵地域です。1992年から現在に至るロヒンギャ難民のキャンプからも近い地域です。最近、同地域の小さな村々では、民族対立で襲撃放火事件が発生。すでに、AMDA バングラデシュ支部が緊急医療支援活動を実施しています。

今こそ、AMDA の提唱する多様性の共存を可能にする「開かれた相互扶助」でもって、宗教を超えて民族が平和的に共存していくための医療和平を実施したく思っています。その良きモデルを2010年からスリランカで実施しています。仏教徒、ヒンズー教と、イスラム教徒、キリスト教徒の4者間の相互理解と相互信頼をめざして、スポーツ、アートそして医療による平和へのメッセージの発信です。医療和平の第二弾となります。

本年も AMDA に対するご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

東日本大震災復興支援

AMDA 東日本国際奨学金

将来医療従事者を目指す被災地の学生を対象としたAMDA東日本国際奨学金プログラムは、たくさんの方のご協力とご支援をいただき、本年度も新たに支給対象者を追加募集することができました。平成24年度の奨学生の選定が終了し、本年度は101名の奨学生に支給を行っています。希望する職種は様々で、医師、看護師のほか薬剤師、理学療法士、介護士などの夢に向かって学業に励む学生を応援しています。2年度合わせて、のべ185名に奨学金を支給しました。

鍼灸治療プログラム

現在、岩手県大槌町と宮城県石巻市雄勝町でそれぞれ地元のスタッフを雇用して鍼灸治療プログラムを実施しています。大槌町では、AMDA大槌健康サポートセンター内の治療院を拠点とし、ときに訪問治療なども取り入れながら、毎月100人以上の患者の治療にあたっています。また雄勝町では、地域の共同スペースを借りて、これまで週1回、鍼灸師が巡回訪問して鍼灸治療を行っていました。しかしながら、治療希望者が多く、予約がとりにくい現状を受けて、雄勝町では2012年1月より、週2回のペースで鍼灸治療を行うことを決定しました。心身の健康に効果がある鍼灸治療で、ますます被災地の方が健康になるよう期待しています。

夏休み高校生交流事業

東日本大震災高校生夏休み招へいプログラムを、華蔵寺（高野山真言宗、岡山県久米郡美崎町）・AMDA合同で実施しました。2012年7月25日から29日までの日程で岡山市内および美崎町・華蔵寺を会場に、報告会や交流事業などを行いました。美咲町でのプログラムでは、華蔵寺の阿形ご住職が発起人となって「般若心経マンダラ」と題し、たくさんの方に一字一字文字を書いていただき、その様々な文字をつないで「般若心経」を作り上げ、参加した方々に配られました。阿形氏よりメッセージが届きましたのでご紹介します。

岡山県美咲町 華蔵寺 住職　阿形　国明

『自分が今、何をするのか…何を言うのか…何を思うのか…』被災地の方々に限らず、それぞれがそれぞれの立場で、これからどのような歩みを進めていくのか…、地球規模で問われています。

東北三県を中心に、阪神淡路はもちろん全国各地270名余りの老若男女が、一文字ずつ謹書した【般若心経マンダラ】。時空を越えた祈りが一つに繋がっていく瞬間。ご両親を震災で亡くされた方から「やっと供養が出来ました」とのお言葉をいただきました。一日寺子屋修行に参加した被災地の高校生や地元の子供たちの、普段と何も変わらない『素直な心』に癒され、深く考えさせられました。

【心の充電】…神仏の空間で心静かに時を過ごす…。姿勢を正して自分自身を見つめる…。すべてに宿る仏さまのいのちが動き始めます。そんな今も昔も変わらないはずのお寺の時空を、大切にお護りさせていただきたいと願っております。心より感謝しております。

出来上がった「般若心経マンダラ」の前で、大槌の高校生たちと一緒に阿形氏（写真中央後方）

被災地間交流・同世代交流事業

11月3日に開催した、東日本復興支援事業 第2回スポーツ親善交流プログラムについて、参加した学校の先生方からメッセージをいただきましたので、ご紹介いたします。

南三陸町立志津川中学校　サッカー部顧問　髙橋 健太郎

震災から1年半あまりが経過し、商店や事業所が再開しはじめるなど、南三陸の地にも少しずつではありますが復興の足音が聞こえてきています。志津川中学校の生徒たちは、校庭に仮設住宅が建ち並ぶ中でも、以前と変わらぬ明るさで毎日の学校生活を送っています。サッカー部の生徒たちも、多くの支援に支えられて日々の練習に励む毎日です。

今回のスポーツ交流プログラムでは、昨年岡山で一緒にサッカーをした、岩手の大槌中学校の生徒たちと再び出会えたことが、私たちにとって一番の喜びでした。昨年岡山に行った生徒たちに、彼らに話しかけてくるように私が促すと、「久しぶりだから何か恥ずかしい」と話しには行きませんでした。しかし、休憩時間や試合前、志津川中の生徒と大槌中の生徒が目を合わせ、さりげなく手を振り合っていた姿を見て、言葉を交わさなくても心はつながっているのだと思いました。サッカーを通じて被災地どうしを結ぶ絆がつくられ、そして今後もつながっていくことを予感させました。世間の関心が次々に移り変わっていく中、こうして支援の手を差し伸べ続けてくださる菅波代表をはじめAMDAの方々、協賛していただいたNICCOの皆様、AmeriCaresの皆様、本当にありがとうございました。今後も、南三陸の未来を担う子どもたちを応援していただけたらと思います。

各校混合で行われたリレー式のサッカーゲーム

気仙沼市立津谷中学校　サッカー部顧問　山口　崇

今回の交流では、サッカーを通じて子ども達同士の初の交流でした。大槌中学校とは初の交流でおたがいに被災していることもあり、どのような交流になるのか不安なところもありました。しかし、こちらの不安をよそに子ども達はとても楽しくプレーしていて良い交流になりました。また、初の試みだった各チームをミックスしてのマラソンサッカーも初めはおたがいに距離があり、もどかしい部分もありましたが、プレーするうちにふれあいができて、最後には仲間として声がけをできるくらいにまで、おたがいを知ることができました。今回の交流を通して同じ境遇でサッカーを頑張っている仲間がいることを知ることができたのは気持ちの面で励みになると思います。今後も定期的に交流し、つながりを大切にしていきたいと思います。最後に今回企画していただいたAMDAの方々に感謝いたします。

フィリピン・ミンダナオ島 台風24号 緊急医療支援活動

12月4日早朝、フィリピン南部のミンダナオ島を台風24号が直撃し、大きな台風被害が報告さまました。これをうけてAMDAでは看護師2名、調整員1名を医療チームとして被災地に派遣しました。

AMDA医療チームは日本からの派遣者3名に加え、フィリピン軍や地元ボランティア医療スタッフらの協力を得て、12日早朝からミンダナオ島コンポステラバレー州モンカヨ郡のサンホセ地区で活動を行いました。

患者の処置にあたる喜久川看護師と山路看護師

診療活動では483人を診察。今回の台風の影響と考えられる外傷や皮膚疾患、下痢、上気道炎などが多くみられました。中には水の中に足を入れて足に傷を負っている人や、傷が感染して洗浄・排膿が必要な人、簡単な処置を受けた後そのままの状態になっている人、下肢に皮膚症状が強くでている人などが見られ、急きょ破傷風の予防注射も行ないました。

また診療活動の他にも、支援物資として準備した500家族分の支援物資（米2キロ、いわしの缶詰3つ、飲料水4リットルなど／1セット）を配布しました。

■派遣者名

喜久川　明日香：看護師／沖縄セントラル病院勤務／沖縄県在住
大山　マージョリ：調整員／岡山倉敷フィリピーノサークル会長／ミンダナオ島出身／岡山県在住
山路　未来：看護師／AMDAプロジェクトオフィサー／岡山県岡山市在住

平成24年度静岡県総合防災訓練参加報告

AMDAは96年から始まった官民合同の総合防災訓練に2010年を除き毎年参加してきました。2012年9月2日に行われた静岡県総合防災訓練では、AMDA ERネットワーク登録医師の細村医師に、これまでの経験を活かして、本防災訓練のアドバイザーの立場でご参加いただきました。この訓練を主催した牧之原市健康推進課と細村医師からの活動報告を一部ご紹介します。

2012年8月にフィリピンルソン島で発生した洪水被害に対するAMDAの緊急医療支援活動に対して、フィリピン軍から、感謝の盾が贈られました。

▶牧之原市 / 健康推進課

医療救護訓練には、現実的な指導が必要です。

牧之原市は、静岡県中部に位置し、駿河湾に面した全国2位のお茶の生（なま）葉（は）産地で、「富士山しずおか空港」のある人口5万人の市です。

平成23年度の静岡県総合防災訓練では、東日本大震災の被災状況を踏まえた東海地震を想定し、市として初めてアムダとDMATにご協力頂き医療救護訓練を実施しました。受付から治療、救護病院への搬送と、一連の流れの中でトリアージに迷い、救護病院への搬送順の考え方や黒エリアの傷病者への対応など、反省と学びが多い訓練となりました。　その後、参加した地元医師会会員から、「定期的にしっかり訓練しておくべきだ」との意見もあり、訓練の反省を基に具体的な行動マニュアルの見直しを進めました。本年度の医療救護訓練は、事前にトリアージや救急処置の研修を重ね、見直した行動マニュアルの検証の場ともしました。

そのような中、医師会から、今回も是非、現場における指導をアムダにお願いしたいとの要望があり、9月2日の訓練に所属医師と調整担当者の派遣を依頼しました。訓練は、昨年の経験を活かしながら緊張感を持って行われ、個々に課題はあるものの貴重な体験の場となりました。反省会では、「再度役割や配置を検討し、訓練を続けていこう」といった現実的かつ真剣な意見が次々と出ました。

市では、訓練を行う中で、何より、医療関係者と行政が協働して、防災や救護について話し合いができることを幸せに思っています。

▶ AMDA ERネットワーク登録医師　北茨城市立総合病院一般内科　細村　幹夫

2011年は牧之原市棒原地区での救護所でのトリアージを実際に行政・医師会・歯科医師会・薬剤師会・看護師会・一般市民の方々に行って頂きました。

救護所に到着すると、すでにSTART法に基づくトリアージのための①受付、②トリアージ・エリア、③緑・黄・赤・黒エリアの設置・医療品・薬剤等の準備がされていました。患者さん役の市民の人達も、各々の疾患に即したメイキング・ヴァイタルボードを首から下げて準備完了状態でした。私は訓練開始前の打ち合わせ時、訓練中、「想定する災害時の状況を想像しながら行ってください」という旨の言葉をかけながら救護訓練を見て回りました。

救護訓練の開始時から、遠慮なく質問を受けました。訓練に参加していた多くの方々が実際の災害を可能な範囲で想像して対応しており、その表情からは昨年とは違う、良い意味で半ば困ったような雰囲気をうかがうことができました。より想像を働かせ問題点を次々に挙げていました。

南海トラフを想定した大災害時に必要なことは、どれだけ安全なところに、どれだけ早く避難するかが一番最初に取り掛かるべき事だと思います。事前の予想を超える'想定外'は必ず起こります。どこが中心になり（地区・市・県レベルをこえて）、どれだけの情報を、どれだけの人々に届けられるか、自らの身の保全が無ければ上記のような救護訓練自体が意味の無いものになりかねません。今回の訓練中、参加された多くの地域住民の方々が自分の想像出来る範囲内であれ、今回の救護所でのトリアージ、一時的治療、広域搬送に多くの問題点を持たれた事は名目上の訓練が上手くいく事よりも大変意義のあったことと思います。

訓練のための訓練では意味がありません。せっかく阪神・淡路大震災、東日本大震災、等々の災害から今までには思いもよらなかった問題点が浮かびあがっています。多くの方々が経験された事を基に、地元中心で地元に即した訓練になればよいと思います。災害にあわれた多くの人々から伝えられた多くの経験、情報を生かすことが大切です。

東日本大震災復興支援

2011年3月11日に発生した東日本大震災から2度目の正月を迎えました。AMDAは復興に向かって一歩一歩すすんでいく被災地の方々をこれからも支援していきます。

AMDA大槌健康サポートセンター事業

2011年12月18日にAMDA大槌健康サポートセンターが開所して、1年が経過しました。釜石市在住の助産師1名が新たにスタッフとして加わり、ますます被災地のニーズに合わせた充実した支援活動を実施していくことができます。

新しいスタッフを紹介します

11月からAMDA大槌健康サポートセンターの新しいスタッフとして勤務している助産師の米田恭子です。昨年の震災後の緊急救援時にAMDAから緊急医療支援のボランティア看護師として大槌町に派遣されていました。自らが被災してもなお人の役に立とうとしている大槌の方たちに心惹かれてしまい、家族と共にこちらに越してきた次第です。復興にはまだ時間がかかりますが、幸い情熱を持って活動している方とAMDAを通じて応援してくださる方々が大勢いらっしゃいます。お互いを繋ぎながら、町の方たちが本当に欲しい未来を作っていきたいと思います。

餅米の贈呈を西村氏から受け取る米田恭子助産師

1周年を迎えて 大槌の今 ～AMDA大槌在住スタッフからのメッセージ～

こんにちは。健康サポートセンターの大久保と鍼灸師の佐々木です。

この度皆様の沢山のご支援により12月で一周年を迎える事ができました。

鍼灸室を併設したセンターは、毎日たくさんの方の笑顔であふれています。

当初、コミュニティサロンのほうで手探りで開催していた行事も、徐々に町民の方に定着してきており、今では、健康体操教室、親子ヨガ教室、[redacted]教室、フライパンで作る天然酵母パン教室、手芸教室などを定期的に開催できるようになりました。センターは仮設住宅からも、在宅地域からも近い位置にあるので、いずれの方も気軽に参加していただいています。またセンターでの教室やイベントに参加することで、新たな繋がりができるなど、出会いの場にもなっています。ここで笑ったり泣いたり、喜怒哀楽の感情を解放する場として、私たちは地元の方のニーズにこたえられるように、今後も新たな企画を行っていきます。

天然酵母パン教室の様子 笑顔があふれます

うれしいことに最近は、私たちが企画したイベントや教室に、住民の方が参加するだけでなく、「こんな事がしたい」「こうやったらいいのでは？」などと提案し、参加者が積極的に発案し、それぞれの得意分野を生かして講師をしてくださることもあります。こうした参加者の方の笑顔が私たちスタッフの元気の源になっています。

私たちスタッフは、常に初心を忘れず、原点を振り返り、「何の為に」「誰の為に」やるのかを忘れずに、私達が元気に利用者さんをお迎えしたいと思います。

震災から1年10か月が過ぎ、全国的なメディアにも取り上げられなくなってきました。AMDAの支援者の皆さんにはいつもご支援いただき、本当に心強いです。でも皆さんが想像している以上に大槌町の復興は進んでいません。今後私たちにできることは、不安を抱えていらっしゃる大槌町やほかの被災地の方の声を発信していくことだと思います。今後ともAMDA健康サポートセンターをよろしくお願い致します。

被災者医療機関支援

2012年12月16日から2013年1月8日までの期間で、冬期派遣として医師、看護師を宮城県本吉郡南三陸町の公立志津川病院および南三陸診療所へ派遣を実施しました。

【AMDA冬期医療派遣者 医師1名、看護師4名】

小林　良太：医　師／新潟県在住／12月28日～1月4日
湯川真悠子：看護師／長野県在住／12月16日～12月24日
濱野めぐみ：看護師／兵庫県在住／12月23日～12月28日
菊地　美和：看護師／大阪府在住／12月27日～1月3日
鹿島　彩女：看護師／千葉県在住／　1月　3日～1月8日

濱野看護師と志津川病院の方々

震災ホームレス支援

震災から2度目の冬を迎え、宮城県仙台市内では、昨年同様、震災ホームレスの方々が問題となっています。

AMDAでは、仙台でホームレスを支援しているNPO仙台夜回りグループに協力する形で、日蓮宗太生山一心寺、生活協同組合おかやまコープと共同で昨年度に引き続き、震災ホームレス支援を行っています。とくに今年は、「二次的震災ホームレス」と呼ばれる方が増えています。これは仙台近隣の被災地および非被災地から復興現場に人が集められ、一時的には雇用されるものの短期間で解雇となり、やむを得ずホームレスになる方々のことで、路上生活未経験者が多く、ホームレスとして生きる術を身につけていないため、餓死、凍死などの命の危険にさらされています。

配布物資に並ぶ震災ホームレスの方々の列

AMDAでは、これらの方々に行き渡るよう、カップめん約1000食、カイロ1200個、フリーズドライ米30食を12月14日に仙台へ発送。18日に仙台に物資が到着後、順次夜回りグループの手で、震災ホームレスの方々へ支給されています。寒さの厳しい3月末までの支援を予定しており、2月中旬に第2便の物資を届ける予定にしています。

AMDA グループ　AMDA 国際福祉事業団による福島支援活動報告

複合災害の被災地「フクシマ」へ

AMDA グループ副代表 AMDA 国際福祉事業団 理事長　的野　秀利

救援物資ミルクの仕分け

避難所学級

卒業式を前に　体育館の除染作業　24 年 3 月

発災 ～ 初動時の救援物資シャトル支援と避難者支援

東日本大震災の発災当夜、インド出張を切り上げて帰国を急ぐ菅波代表から東北への派遣準備や情報収集、関係官庁との連絡調整等にあたるよう指示があり、その中で、岩手・宮城の両県は AMDA 本部が担当し、福島県は、公設国際貢献大学校の運営にあたっている AMDA 国際福祉事業団が担当することが決まりました。地震、津波に加え原子力発電所の被災状況が全く判らず確認情報がない中で、翌 3 月 12 日、大学校が災害に備えて物資を備蓄している防災訓練シェルターで救援物資を詰め込んだトラックが福島方面へと向かいました。これまで多くの国内外の救援活動に取り組みましたが、救援要請を受けず提供先も未決定のまま救援隊を出発させたのは、この大震災が初めてのケースとなりました。

大学校では、被災地政府・自治体等からの派遣要請により救援を行なうことを原則としています。しかし、この度の大震災では未曾有のインフラの破壊により、被災地の自治体が被災地の外にＳＯＳが発信できない状況にあると判断されることから、初動・応急に必要とされる救援物資を詰め込み、とにかく福島方面へと向かいました。搬送先が会津若松市と決まったのは、福島県内の磐越道上の車中でした。

この 1 次隊は、会津若松市役所で救援物資の引き渡しを終え、浜通り等からの避難者のための避難所の立ち上げに協力した後、岡山へ引き返し、2 次隊以降、会津若松市や福島市より要請を受けた毛布、オムツ、マスク、ブルーシート、おかゆ等多くの救援物資シャトル支援を実施しました。

中でも特に喜ばれたのが粉ミルクでした。ミルクは震災直後から入手が困難な状況となり、「飲み慣れたミルクでないと飲んでくれない」、「アレルギー対応のミルクしか飲めない」「これまで母乳が出ていたけど、震災の後から出なくなった」「ミルクの使用経験がないため、我が子にどのミルクが合うのかも分からない」等のニーズに対応するため、様々な種類のミルクを哺乳ビン等とともにお届けしました。

救援物資シャトル支援では、24 年 3 月末の 26 次派遣までに衛生・栄養・除染・生活・介護支援用品・線量計・除雪機等、計 101 品目、534,476 点を被災地（宮城県石巻市、川崎町を含む）へお届けすることができました。

ご支援を頂きました皆様には、厚く御礼申し上げます。

南相馬市長からの支援要請

東日本大震災の発災直後から、日本中、いや世界中から多くの支援が寄せられましたが、福島県へは原発事故の影響により、被災地に入って行うボランティア等の直接支援が敬遠されていました。

そのような中で、桜井勝延・南相馬市長より要請を受け、約四百名の南相馬市民が避難している伊達市の体育館での避難所運営に協力することになりました。

この避難所は、浜通りからの避難者のために伊達市が設置し、そこには、南相馬市役所から職員が派遣されていました。市職員でなければできない公務以外はなるべく任せて頂き、少しでも早く市役所に戻って復旧・復興業務にあたってもらうよう努めました。避難者の皆様には、放射線対策のため閉め切った体育館から一日も早く仮設住宅や借上げ住宅に移って頂くよう転居支援に全力で取り組んだ結果、6 月末、この梁川避難所は無事に閉所となりました。ひとえに避難所の設置者である伊達市と梁川近隣の皆様、大きな屋根の下で暮らす大きな家族のようになった避難者の皆様のご協力の賜物であります。そして、自らも被災者でありながら避難者に「ひとり市役所」として真摯に対応された南相馬市の職員へ敬意を表します。

南相馬こども支援キャンペーンなど

4 月 22 日には、福島第 1 原発から３０キロ圏外の鹿島区の小学校や体育館で学校が再開されることとなりました。机や椅子は運び込むことができましたが、黒板は外して避難先の学校へ持ち込むことができず、スタッフが移動式黒板３０枚（岡山県提供）を深夜まで組立て、やっと授業に間に合わせました。除染支援としての児童用マスクや雨合羽の各校配布や通学路の除染等を急ぎ、学校支援活動と避難所や仮設住宅訪問業務の両立に追われた日々でしたが、笑顔で迎えてくれる子どもたちからエネルギーをもらう毎日となりました。

現在、南相馬の仮設校舎で学ぶ児童・生徒や伊達市の学校支援を続けていますが、今後も長期にわたり学童支援プログラムを実施して参りたいと考えております。

今後の支援方針

「福島」は、この度の原発事故により、不本意な形で世界に知られることとなりました。

AMDA 国際福祉事業団は、福島をふる里とし、その復興を担う子どもたちを支援します。

福島の子どもたちが、この大きな試練を乗り越えて世界の舞台で活躍するようになった時こそ、世界が福島の真の復興を確かめるときです。

東日本大震災では、「絆」という言葉をよく耳にしますが、僕にとって「絆」とは、とても重い言葉です。僕は、「支援」を通じて福島の皆さんとの「ご縁」をもつことができました。これを何十年もかけて「絆」にしてゆきたいと考えています。

僕らの支援活動は、東日本大震災に対する社会の関心が薄れてゆくこれからが正念場です。

これからもご支援をお願い致します。

2012年10月～12月の動き

＜講演＞

10月13日	沖縄平和賞シンポジウム「平和って何だろう？～人間の安全保障について～」	沖縄県（環境生活部平和・男女共同参画課）
10月18日	社会人講師活用事業　「国際看護」	岡山県立倉敷中央高等学校
10月19日	ＡＭＤＡの生い立ちと現在の活動	岡山マスターズクラブ
10月20日	ＢＭＯＪ＆ＡＭＤＡとＢＥＲＴによる講習会	NPO法人ビー・エム・オー・ジェイ
10月25日	第４９回全国国立大学附属学校連盟副校園長会研究会	岡山大学教育学部附属中学校
10月25日	学校教育の特別活動ロングホームルーム	就実高等学校
10月25日	社会人講師活用事業　「災害看護」	岡山県立倉敷中央高等学校
10月27日	人権教育講演会　テーマ「生命と人権の尊重」	浅口市立寄島中学校
10月28日	金光中学校　ＰＴＡ人権教育講演会　「国際理解について」	浅口市立金光中学校
11月7日	災害看護	倉敷翠松高等学校　看護科
11月18日	ＡＭＤＡの活動理念と現実活動状況	天台宗一隅を照らす運動
11月20日	岡山県高等学校教育研究会人権教育部会備中支部研究協議会	岡山県高等学校教育研究会人権教育部会備中支部
11月22日	「困ったときはお互いさま」　ＡＭＤＡの活動を通じて	岡山市立福浜中学校３学年
11月24日	第２回 笑って遊ぼうミキランド　「緊急医療の在り方」	NPO法人BERT（笑って遊ぼうミキランド実行委員会）
12月7日	東日本大震災の救援活動を通じて	岡山市立桑田中学校

＜大学講義＞

10月4,11,18日	相生市看護専門学校	災害看護	
10月6日	岡山県立大学	伝統的ネパール小児医療、主にアユルベーダ的小児医療システムと儀式について	ラメシュ ポカレル医師
10月9日	相生市看護専門学校	伝統的ネパール小児医療、主にアユルベーダ的小児医療システムと儀式について	ラメシュ ポカレル医師
10月9日	神戸大学附属病院	伝統的ネパール小児医療、主にアユルベーダ的小児医療システムと儀式について	ラメシュ ポカレル医師
10月11日	福山平成大学	伝統的ネパール小児医療、主にアユルベーダ的小児医療システムと儀式について	ラメシュ ポカレル医師
11月19日	岡山大学法学部	法学部授業「公共政策論」	
12月7,14日	岡山大学薬学部	国際医療保健学	

＜イベント＞

10月6日	AMDAフードプログラム　新庄村のとろ農場収穫祭
10月7日	国際貢献講演会　県内現役大学生（おかやま国際塾１期生、２期生）による国際貢献活動発表
10/10～10/15	第３８回備芸会展　同時開催：ＡＭＤＡの軌跡展
10月20日	東日本大震災チャリティコンサート　中谷和子 Alto　Recital（主催：ぐるーぷ　ピスティル　　共催：ＡＭＤＡ）
10月21日	倉敷国際ふれあい広場2012イベント（AMDAブース パネル展示）
10月21日	笠岡・大空と大地のカーニバル2012　（AMDAブース　パネル展示）
10/25～11月中旬	AMDA MINDS「岡山の国際貢献」写真展開催
10月28日	新庄村あじわい祭り（AMDA野土路農場ブース　パネル展示・野土路ホットダック販売）
11/3-11/4	2012年度第27回日本国際保健医療学会　学術大会「みはなさない、その命」
11月3日	ＡＭＤＡ東日本大震災復興支援　スポーツ交流プログラム（東日本大震災復興支援 会場：気仙沼市）
11月4日	玉野ふれあいフェスティバル開催（AMDA玉野クラブ　ブース出展）
11月23日	第12回岡山経済同友会　教育フォーラム「震災復興と岡山のボランティア学生たち」（ゲストコメンテーター・パネラー）
11/23～11/25	第11回記念「小春日和の書展」　AMDAパネル展示
12月2日	道の駅新庄村「ひめのもちまつり」（AMDA野土路農場　ホットダック実演販売）
12月9日	第12回AMDA支援チャリティ全日本極真空手道選手権大会

＜ジュニアインターン受け入れ＞

樋口 裕介（岡山大学法学部）
清水 俊助（岡山大学法学部）

＜ボランティア実習受け入れ＞

登喜 望（吉備国際大学 保健医療福祉学部社会福祉学科）

AMDA フードプログラム 2012年度の活動報告

4月に行われた放鳥イベント

AMDA フードプログラムとは「食は命の源」を目的にアジア有機農業を啓蒙・普及することを目的とするプログラムです。本事業を通じて、日本の中山間村を代表する新庄村の地域振興に貢献するとともに、インドネシアをはじめとするアジアの地域に有機農業への技術移転を目的としています。

新庄村の野土路（のとろ）地区に2011年4月、「AMDA 野土路農場」を発足させ、雑草害虫駆除のためのアヒル農法を取り入れた稲作を実施。2012年からは専任スタッフを2名雇用し、稲作だけでなく、白菜や大根、スイートコーンなども無農薬で有機栽培を行い、青果市場や市内のスーパーなどに出荷しました。

また10月6日の収穫祭では、「新庄村農産物、アムダ農場農産物を世界へ届けよう」の声に乗せて、アムダの支部がある各国の駐日外国公館へ、農産物を送り出す出陣式を実施しました。その後、新庄村長・笹野寛氏と村議会議員・磯田博基氏とともに AMDA スタッフが、バングラデシュ大使館、インド 大使館、ほか10の駐日外国公館を順次訪問。AMDA 有機米・コシヒカリと新庄村の農産物をセットにして贈呈しました。訪れたカンボジア大使館では、「カンボジアでも有機農業への関心は非常に高い。また、化学肥料を使わないので国民の健康を向上させられる今後の活動に期待しています。」などの言葉をいただき、いずれの大使館でも『人の体に優しい、安全安心の有機農業』に対する関心が高いことを感じられました。

在京マレーシア大使館で大使（中央）とともに

2013年1月には有機農業の技術移転を目的としたインドネシアへの現地視察を新庄村と AMDA で予定しています。

支援者紹介

おかやま山陽高校
3年E組有志団体様
マイスタースクールトンボ玉様

全日信販株式会社様
AMDA カードによる支援金

一粒会様

AMDA 鎌倉クラブ チャリティーコンサート

今年で第14回となった AMDA 鎌倉チャリティーコンサートは「絆」と題して開催されました。会場は満員御礼の賑わいで、津軽三味線や箏曲などの音色で盛り上がりました。

ボランティア紹介

吉備国際大学法学部3回生 登喜 望

私は大学のボランティア活動実習という授業の一環でさまざまなボランティア活動を行っています。そのうちの約90時間を AMDA でお世話になりました。

以前から AMDA の活動に興味があったので、今回ボランティアとして AMDA の中に入って一緒に活動させていただいたことを大変嬉しく思っています。

ボランティアの方々を含め、スタッフの皆さまの明るくイキイキとお仕事をされる姿を見て、ますます AMDA のファンになりました。

オープンな事務所にフレンドリーなスタッフの皆さまのおかげで楽しく活動することができました。本当にありがとうございました。

インターン紹介

岡山大学法学部3回生 樋口裕介

10月からインターンとして AMDA でお世話になっております、樋口裕介と申します。現在、岡山大学法学部3回生で、国際法を専攻しております。AMDA には岡山大学の国際法ゼミの黒神先生の紹介で来させていただきました。素晴らしい理念と活動歴を持つ AMDA にインターンとして受け入れて頂き身が引き締まる思いです。主に、来年8月末に行われる予定のスリランカ医療和平事業を、責任を持ってやらせていただくことになっております。「家族の今日の生活と明日の希望が実現できる状況」の構築出来る様、精一杯頑張りたいと思いますので、よろしくお願いします。

岡山大学法学部3回生 清水 俊助

12月5日から、インターンとして AMDA に参加させていただいている清水と申します。大学では国際法ゼミに所属しています。AMDA は今まで様々な国際問題を解決する努力を行ってきており、国際平和に大きく貢献しています。その中で私は、バングラディッシュの難民プロジェクトに従事させていただいています。国際法的にも難民問題は多くの複数の異なる宗教を持つ人々が居住している地域で、異宗教間交流を行うことで融和を図るということが目的です。このような国際問題に関係する活動に携わらせていただくことで、大学での研究だけでなく、私自身の「世界を見る目」というものを養っていきたいと考えています。よろしくお願いします。